

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 善応寺の釈迦如来坐像

鎌倉時代に入り上三川城が築かれると、これに伴い様々な施設が、城内に築かれていきました。その施設の一つに寺院があげられます。城内でも城主や有力な家臣たちは、自分たちの祖先の霊を祭る場、祈りの場として寺院を建立し、多くの寺院が現在も残ります。

今回紹介する釈迦如来坐像は、上三川城主横田家の菩提寺として建立された善応寺の本尊でもあります。

善応寺が建立されたのは鎌倉時代末期の1320（元応2）年のことで、初代の横田（宇都宮）頼業が上三川城を築いた1249（建長2）年から71年が過ぎ去ったときでした。江戸時代に入った1696（元禄9）年に書かれた寺の縁起には、1320年に建立された際に建てられた大宝殿の中に、釈迦・文殊・普賢の三尊をまつたと記さ

れており、この中の釈迦如来坐像だと考えられます。また、この記述を裏付けるように、文殊菩薩・普賢菩薩のどちらかのものと考えられる仏像の頭部が残されており、建立当初は釈迦三尊像であったものと考えられます。

釈迦如来とは、お釈迦様と呼ばれ、仏教の創始者である釈迦のことも指します。日本には仏教の伝来とともに伝わり、飛鳥寺や法隆寺といった古い寺院にも当時の釈迦如来像が残されています。

仏像の形は時代とともに変化していきませんが、仏教伝来当初は、神秘的な外観だったものが、奈良時代になると写実的になり、平安時代には柔和



な表現の仏像が多くなり、更に鎌倉時代には、奈良の東大寺・興福寺の仏像の復興や、当時の中国の宋の影響によって、仏像が大きく変わりました。そして善応寺の釈迦如来坐像も宋の影響を受けた仏像なのです。この釈迦如来坐像は、顔は面長で切れ長の目線や細く波打つ頭髮、下半身をまとう裳の複雑なひだのとり方など、宋風の特徴をもった像で、県内でも例のないものです。像高は約110cmで頭上は宝冠で飾られており、宇都宮氏一族として重要な役割を果たした横田氏の菩提寺の本尊としての風格を漂わせる仏像です。

鎌倉時代																			
1333	1332	1331	1328	1327	1325	1324	1321	1320	1316	1315	1311	1310	1307	1305	1302	1297	西暦		
元弘3	元弘2	元弘元	嘉暦3	嘉暦2	正中2	正中元	元亨元	元応2	正和5	正和4	応長元	延慶3	徳治2	嘉元3	正安3	永仁5	元号		
新田義貞の攻撃により、北条高時自害。鎌倉幕府滅亡。	鎌倉幕府の命を受けた宇都宮公綱、摂津国天王寺付近で楠木正成と対峙する。	幕府、楠木正成等鎮圧のため宇都宮公綱を、河内千早城に向かわせる。	後醍醐天皇、倒幕を企てるも失敗。翌年、隠岐に流される。（元弘の乱）	幕府派遣の宇都宮高貞、蝦夷蜂起を和談して帰還。	蝦夷蜂起、幕府大軍投入。宇都宮高貞も派遣される。	上三川城主横田頼業、正清寺を再建する。	後醍醐天皇の倒幕計画が露見。関係者が処分される。（正中の変）	後醍醐天皇、院政を停止。記録所を再興。	※このころ町指定文化財善応寺釈迦如来坐像がつくられる。	上三川城主横田貞朝、城内に善応寺を建立し、菩提寺とする。	北条高時が鎌倉幕府執権に就任する。	鎌倉が大火にみまわれる。	この年疫病が大流行する。	鎌倉が大火にみまわれる。	関東地方に大地震が起こる。	鎌倉で大地震。元執権北条貞時邸炎上。	鎌倉で大火。五百人が死亡するという。	幕府、徳政令を発する。	できごと

巡回バス最寄りバス停
 本郷線（ピンクのバス）
 上町下車、徒歩5分
 ▼問い合わせ先＝
 生涯学習課 生涯学習係
 ☎9159